



いとすぎしまね

第27号 平成31年3月31日

島根県青少年赤十字賛助奉仕団

日本赤十字社島根県支部内 松江市内中原町40 Tel 0852-21-4237



力まず、気を抜かず

島根県青少年赤十字賛助奉仕団 委員長 広原 啓視

私は高校の教員を定年退職後、直ちに島根県青少年赤十字賛助奉仕団に入団しましたが、ほぼ同じ頃に出雲市内の混声合唱団にも入団しました。合唱を老後の楽しみの一つにしようと思ったからです。もともと歌うことが好きで、楽譜もそこそこに読めるので歌には自信があったのですが、いざ歌ってみると、音程が下がり気味だと指導者から指摘されました。特に、旋律が下降する部分の音程が下がり気味になるので、その部分は特に「気を抜かず」、丁寧に歌わなければならぬと指導されました。言われてみると確かにその通りで、私は細かいことにまで気を配ってはいませんでした。もちろん、今は細部に注意を払い、丁寧に歌うことを心掛けていますが、「気を抜かない」ことの大切さはコーラスだけの問題ではないことにも気づきました。

例えば、「人権感覚」の問題です。私は現職の頃、人権・同和教育の研修会や講習会に積極的に参加していましたので、自分では「人権感覚」は優れている方だろうという思い上がりや油断がありました。それが、あるとき自分が差別的な意識を持っていることに気づき、愕然とした経験があります。「人権感覚」は「気を抜かず」絶えず磨き続けなければ錆びついてしまうものだということに気づきました。

青少年赤十字に関することでも同様です。私は、現職の頃から長く青少年赤十字の活動に携わってきましたので、青少年赤十字のことは知り尽くしているような思い込みを抱いていましたが、それが錯

覚だったということにも気づきました。技術研修などの講習会に参加するたびに、初めて知ったことや忘れてしまったことがいかに多いかということに気づかされます。何事も「これでよし」ということはなく、「気を抜かず」学び続けることが大切であることを思い知りました。「赤十字思想」についても、初心に帰って学び直し、かつ学び続けたいと思っています。

ところで、私は気持ちが落ち込んだとき、井伏鱒二さんの詩や隨筆を読むことがよくあります。井伏さんの作品を読むと、その言葉が心の中に沁み込み、腹の底から笑いがこみあげてきて、屈託した気分が吹き飛んでしまうからです。その井伏さんの詩に対して、的確な評言を与えた本に出会いました。それは、ねじめ正一著『言葉の力を贈りたい』(NHK出版)です。著者のねじめさんによると、井伏さんの詩の言葉の特徴は「力んでいない」ということだそうで、それは「力を出し惜しみすることではなく、「気を抜かず、手も抜かず、力だけを上手に抜く」ということでした。井伏さんの詩が読む者の心の中にじわりと沁み込んでくるのも、「力んでいない」からだと納得した次第です。

昨年の4月に川津愛子先生のあとを受けて委員長を引き受けて以来、その責任の重さを痛感することが多々ありましたが、まずは「力まず、気を抜かず」、団員の皆様と一緒に、これまでの賛助奉仕団の実績に少しづつ磨きをかけていきたいと思っています。どうかよろしくお願ひいたします。

よろしくお願ひします



日本赤十字社島根県支部 事務局長 岸川 慎一

昨年4月、事務局長に就任しました岸川でございます。よろしくお願ひいたします。

広原委員長さんをはじめ、団員の皆様方には、日頃から赤十字、取り分け「青少年赤十字」の活動に対して、深いご理解と温かいご支援を頂き、心よりお礼申し上げます。

私は、昨年の3月に県職員を退職し、4月からこの赤十字の道に関わらせていただき、ようやく1年が過ぎようとしております。思えば、(病院と献血を除けば、)小学校6年生で参加した夏のトレセン、高校時代の友人が所属していたJRC部、県庁時代にお世話になった防災関係機関としての県支部、これらが、私と赤十字との関わりでございました。支部に参りましてから、皆様の活動を拝見するにつけ、賛助奉仕団をはじめ各学校の教職員の方々、各種ボランティアや県民の皆様方に支

えられて、赤十字活動が行われている、ということをつくづく感じさせられます。私としても、その伝統に育まれ、高い志に満ち溢れた姿に学び、島根の赤十字活動の発展に、精一杯取り組んでまいりたいと思います。

今後も引き続き、皆様方には赤十字の人道の精神のもと、くれぐれもご自愛いただきながら、素晴らしい活動を続けていただきますよう、お願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

(追記)

昨秋、県庁敷地内の駐車場（元テニスコート）脇の植木の中に、あのソルフェリーノの丘の「いとすぎ」が植えられていることを教えていただき、えも言われぬ感動を覚え、改めて、「いとすぎしまね」の深い意味あいを噛みしめさせていただきました。

「赤十字人」この不思議なひびき



～自負と意欲とためらいと～

島根県青少年赤十字賛助奉仕団 前委員長 川津 愛子

平成31年2月、島根県青少年赤十字指導者講習会の講師、井上忠男氏からいただいた1冊の本。ピエール・ポワシェ著、廣渡太郎訳『アンリー・デュナン伝』の表紙に書かれた「その波瀾に満ちた栄光と挫折の生涯をたどる赤十字人必読の書」という言葉に惹かれ読み始めましたが、デュナンのあまりにも孤独で苦難に満ちた人生の過酷さにしばしば嘆息しました。そこには私の知らないデュナンがいて、その妥協しない生き方は強烈でした。きれいごとではない赤十字の現実もありました。また、「赤十字人」という耳慣れない言葉に疑問も感じました。赤十字人って何？赤十字人のスタンダードは？私も赤十字人？と。

松江農林高校校長、寛弘仲先生（故人）との出会い

で青少年赤十字に導かれて以来、全国指導者協議会では日赤本社の井上忠男青少年課長（当時）ほか、島根県支部では三島一徳氏ほか、トレセン等でも多くの先輩たちの薰陶を受けました。これら「赤十字人」の皆さんの熱い思いに感化され、教育現場で悩んだ時も、「守るべきは生徒たちの夢、人としての尊厳」と信じることで覚悟が決まりました。青少年赤十字に教師として成長する大切な基盤を学びました。

私もひとりの赤十字人なのだという自負、赤十字人でありたいという意欲、新たな活動へのためらいなど、思いは様々ですが、団員の皆さんとともに元気に、楽しく、身丈に合った活動をしていけたらと思っています。

平成30年度全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会・研修会 報告

島根県青少年赤十字賛助奉仕団 委員長 広原 啓視

平成30年7月5日（木）、6日（金）の両日、東京都港区の日赤本社で開催された標記の総会・研修会に参加しました。日程、事業報告・計画、決算・予算等、定番のことはすでに島根県支部に報告しましたので、それ以外のことについて、いくつか報告します。

1 役員について

総会において、平成30年度の新役員が選出されました。その結果、会長には福島県の藤田伸朔先生、副会長には東京都の阿部英幸先生と本県前委員長の川津愛子先生が就任されることになりました。

2 分科会（研究会①）

参加者が9つのグループに分かれ、次の課題について話し合いました。

- (1) 青少年指導者協議会との連携について
- (2) 赤十字思想の普及と防災教育の充実について
- (3) 青少年赤十字賛助奉仕団の増員方法について

それぞれの賛助奉仕団が同じような課題を抱えていることを再認識しました。ただ、茨城県では、賛助奉仕団と指導者協議会及び県教委指導主事合同の赤十字推進会議があるとのことで、加盟促進に大きな役割を果たしているとのことでした。大いに参考になると思いました。

3 分科会（研究会②）

「災害時シミュレーション」

講師 千葉県支部職員 石川安子氏

9つのグループに分かれて実施された防

災コミュニケーションワークショップで、東日本大震災を体験された岩手、宮城、福島 各県の参加者の意見は非常に説得力がありました。また、青少年赤十字ではなじみ深い「先見」（常に先を見て準備すること）の大切さを改めて実感しました。

4 ブロック会：第5ブロックの参加者による情報交換等

- ・平成30年度中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会について

期日：10月11日～10月12日

会場：セントコア山口

次年度開催県：徳島県

5 感想等

7月6日は、西日本が豪雨災害に見舞われた日でもありました。災害はいつどこで発生するかわからないということを実感しました。日ごろから、それに備えておくことの大切さを思い知らされました。

平成30年度中・四プロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会 報告

「明治維新150周年の山口にて」

金崎 智枝

昨年、サンラポーむらくもで開催した島根大会からはや1年が経ちました。今年は山口市で開催され、広原委員長に同行し参加させて頂きました。明治改元から150周年を迎える節目の年、山口では幕末・明治期の貴重な資料を持つ博物館や美術館などをめぐり維新胎動の地を体感する「幕末維新回廊」が展開されているとのことでした。研修会2日目には、松田屋ホテル庭園（登録記念物、文化財）や井上公園など明治維新150周年記念関連施設の視察もありました。中原中也の記念館では、「中原中也全集」を完読されたばかりの広原委員長さんの贅沢な解説付きで、一人ではとてもできなかった充実した鑑賞をさせていただきました。

期日：平成30年10月11日（木）、12日（金）

会場：セントコア山口（山口市湯田温泉）

参加者：賛助奉仕団員31名 支部事務局4名

1 班別協議会

テーマ「賛助奉仕団としての活動の現状とこれからについて」

各県への事前アンケートをもとに5つのグループに分かれて協議をしました。私が参加したグループの他県の取組で次のような内容が印象に残りました。

- ・防災ボランティア養成の支援（岡山）
- ・“JRC加盟促進部”20名が、支部職員とともに加盟の勧誘（愛媛）
- ・コミュニティースクールに関わる地域の諸団体とともに、学校の防災活動（子どもの引渡しなど）との連携（山口）
- ・赤十字人道紙芝居「ばんどうコスモス」の作成と上映（徳島）
- ・災害時の避難所への支援の在り方の検討（愛媛）

2 講演 演題「伝統継承と笑いの世界について」

講師 山口鶯流狂言保存会

米本太郎氏

現在の能楽の狂言の流派大蔵流と和泉流の他

に、明治の半ばまでは鶯流もありましたが、明治維新後萩藩の能狂言役者が廃業する中、春日庄作の好演から山口に鶯流が広がったとのことです。存亡の危機の中保存会を結成し、伝統芸能の尽力される若い狂言師によるお話と狂言による講演でした。昭和42年に山口県無形文化財第1号に指定され、現在伝承者が20名いるとのことです。



3 実践発表・JRC加盟校視察

下関市立関西小学校

山口市立湯田小学校

普段の学校生活の中に「気づき、考え、実行する」という青少年赤十字の態度目標を生かしている、2つの小学校の若い先生方の実践発表でした。これからJRC活動を支えていって頂きたいと希望をもちました。視察をした湯田小学校には、いとすぎが2mほどに育っていました。お年寄りの施設との交流で行っているというハンドマッサージを6年生にしてもらい、児童の皆さんと話もはずみました。

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターに参加して

7月27日～7月28日（台風のため28日午後解散しました。）

リーダートレセンにおける 体験活動の意義 岩井 元康

わたしは、平成30年度青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（以下リーダートレセンと略記）の2日目に参加し、フィールドワークと技術研修の手伝いをした。その中でフィールドワークを取り上げ、思ったこと、感じたことを振り返ってみた。

フィールドワークは、野外で校種を越えた異年齢（小・中・高生）のグループごとに協力して関所を突破し、ゴールを目指す体験活動であり、このリーダートレセンでは毎年実施されている。私はその関所の一つで、到着したグループを誘導したり、この関所で突破すべき内容の説明をしたりする係を担当した。そして、関所突破を目指しグループごとに一生懸命取り組む姿を見て、各グループでその姿は少しずつ異なってはいるが、リーダートレセンに相応しいリーダー性やチームワークが確実に育っていることを実感した。

平成25年1月に示された中教審答申では、今後の青少年の体験活動の推進にあたり「体験活動は人づくりの“原点”であるとの認識の下、未来の社会を担う全ての青少年に、人間的な成長に不可欠な体験を経験させるためには、体験活動の機会を意図的・計画的に創出することが求められている」ことが示されている。フィールドワークも含め、リーダートレセンにおける体験活動の意義の一つがここにあるのではないかと感じた。そして、リーダー養成も立派に果たしているトレセンであることをあらためて痛感した。

共に点字を学んで 花田 紀美江

今年の夏はことのほか暑く、外出がおっくうになり、ほとんどクーラーの中で過ごしていた。さらに研修当日は、あくる日に台風の襲来が予想され、ギラギラ、ムシムシしており、足取り重く、よたよたと出かけた。

会場は前の研修の最中で、静まり返っていた。部屋を覗くと、すでに講師の松本先生が来ておられ、先生の指示に従って入念な準備をし、パソコンの予習をして、受講生さんが来るのを待った。

受講生さん達は、意欲的であり、きわめて優秀だった。積極的に質問し、どんどん新しい知識を習得していった。特にパソコンの理解には優れ、まごまごしている指導者をすぐに追い越し、自分たちで学びを進めていった。さすが、コンピューター世代と脱帽した。

JRCの人たちと過ごすといつも、すがすがしい気持ちになり、元気をもらう。しゃきっとした足取りで帰途に就いた。



点訳コース



根子岳ツアーリポート

島根県青少年赤十字賛助奉仕団 副委員長 本田 坦

およそ 50 年前のことである。

根子岳は長野県菅平高原になだらかに連なっている山で、スキーツアーに絶好の山である。ある大学の体育実技で、4泊 5 日のスキー合宿（必修）である。

その 3 日目にツアーが伝統的に行われていた。私も指導をまかされている学生 15 人と共に根子岳に向けて出発した。

スキー板にシール（スキーで前進するが、後ろに滑らないようにする帶状の登山用具）を貼付け、積雪の上を歩き始めた。

森林帯を過ぎる所で休憩、受持ちの学生に、風速 10 メートル位、風雪の中、遮るものない斜面を登るので、直接風を向かないよう、特に頬、耳たぶなどを覆うように指示した。中には、権兵衛さんかぶりをして頬をカバーした者もいた。またシールが緩まないように、しっかりとスキー板に縛るようにも注意した。

さて、ここから登山が始まったのだが、時折突風が吹きつける中、止まることなく



約 2 時間をかけて、頂上まで何とかたどり着き、ホッとした感じだった。登行中、他のグループは突風の中、立止まって風を避けるようにしていた者もいた。シールを外し転ばないようゆっくり滑り降り、無事に下山、宿舎近くで解散した。先に降りたグループの中に頬が赤黒くはれ、中には耳たぶから滲出液が垂れている者もいた。かなりひどい凍傷である。20 人を超える学生が傷害を負っていた。厳しいツアーダったわけである。

容赦のない自然の厳しさを見せつけられるとともに、自分が救急法指導員として参加者全員に、風雪にさらされる危険、凍傷防止を伝えなかったことを反省した。昨今のテレビでの横殴りの風雪の様子を見て思い出す。



さすが尾畠さんだ

～ボランティア活動の一つの有り様を提示して見せた～



荒木 光哉

今年は、既に6月下旬頃から連日猛烈な暑さが続く。35度以上はおろか、内陸では日中40度を超えるところもあったようだ。加齢と共にこの暑さは身にこたえた。また、猛暑の間には、台風や洪水、土砂崩れ、河川の堤防の決壊、道路・電柱・建築物破損、火山や大地震の被害等々、日本列島は、正に“災害列島の実情”を体感させられる。大自然に対して人間の力が如何に無力か、なんとも情けないほど打ちのめされた思いだ。

そうした今年の状況にあって、素晴らしい感動的な事件に出会った。標題の尾畠春夫さんのことだ。山口県大島町に母親と帰省していた防府市の子供（2歳）が、家族とはぐれて行方不明となり、その後一人で島内の山中をさまよい、樹木で覆われた尾根筋の沢に座り込んでいたところを3日ぶりに発見された。曾祖父の家から約560メートルの、谷水のある辺りだった。発見者の尾畠さんの証言に注目したい。「人は山地にあって仲間からはぐれ、一人になると、広い平野に向かうけれど、夜が迫り、それが不可能と知れば、上方の尾根伝いに進み、日陰で水場に近い所を探し、身を隠す。子供であっても、孤独の中にあっては、本能的に深層心理の作用が働くではないか」と。

尾畠さんは、2011年3月の東日本大震災では、被害を受けた宮城の南三陸町を訪れ、がれきの中に埋もれた思い出の写真などを拾い集める「思いで探し隊」の隊長になっている。

2016年の熊本地震にも参加。同年12月には、大分県佐伯市で行方不明になり、21時間後に発見された当時2歳の女児の探索にも参加した。他の参加者から「師匠」と呼ばれ、多くの人たちから慕われている。

新聞に次のような記事が載っていた。

“越智美幸さんは西日本豪雨災害のボランティア活動で出会った尾畠さんについて「経験が豊富で相手を思いやる気持ちも強い」と話す。また、南三陸町社会福祉協議会の三浦真悦さんは「いつも笑っていて、元気をもらうような存在。行動力があり、やっぱり尾畠さん、すごいなと思った」と称賛した。”

いつもの登山スタイルで被災地に赴き、用件が片付くと潔く現地を去って、次の被災地に行くため、自宅に帰り、必要な装備や携帯品の準備に邁進する。日常生活は質素だが、訪問先では、その仕草が自然で誠に清々しく、それでいてどことなく自信に溢れている。

ボランティア活動の一つの有り様を示していると言えよう。

※ この原稿は昨年（2018年）の9月末にいただいたもので、資料を含めると3ページに及ぶものでした。ただし、紙面の都合もあり、筆者の了解を得て、一部省略した形で、掲載させていただきました。

赤十字運動月間広報キャンペーンに参加して

島根県青少年赤十字賛助奉仕団 委員長 広原 啓視

アンリ・デュナンが生まれた5月を「赤十字運動月間」として、赤十字運動に対する広報活動が全国各地で展開されている。島根県においても、毎年、松江市、出雲市、江津市、浜田市等で実施されており、島根県青少年赤十字賛助奉仕団として参加しているのは、松江市と出雲市の会場である。さて、平成30年度は、5月20日（日）に実施され、私は副委員長の清水先生、幹事の中澤先生とともに、出雲市のラピタ本店でのキャンペーンに参加した。午前10時から11時30分まで、来店されるみなさんに、赤十字のマーク入りのカットパンを配りながら、赤十字の活動に対する理解と協力をお願いした。

私は入団してから、毎年このキャンペーン活動に参加しているので、今回で11回目ということになる。他の赤十字奉仕団の方々も

参加されるので、長く続けていると、なじみもできてくる。地域赤十字奉仕団、無線赤十字奉仕団、社会福祉協議会の方々など、顔なじみとなった人たちに会うのも、この活動に参加する楽しみの一つとなっている。

赤十字の活動に対する市民のみなさんの理解は必ずしも十分とは言えないが、少しでも赤十字運動の輪が広がることを願いながら、この活動に参加し続けていきたいと思う。



赤十字広報キャンペーン（ラピタ本店）

【賛助奉仕団 奉仕活動】



NHK 嵯峨・海外たすけあいフェア（いきいきプラサ）



JRC 加盟登録式（安来市立島田学校）

新入団員

入団にあたって

飯塚 勝

賛助奉仕団に入れていただいた

金森 詞子

教員に成り立ての頃、「教育は字隠し遊び」と聞きました。先生の教えがその時は理解できなくても、年を重ねその教え（文字）を覆っていた砂が除かれて、教えの意味が本当に理解できるということです。教員になって赤十字活動に特別何も関わってこなかった自分が、この4年間指導者協議会に関わらせていただいたのも、あのトレセンが原体験にあつたからでしょうか。今の子供達にも、赤十字に係る原体験をしてもらえたと 思います。退職後、再任用教諭（短時間勤務）として松江南高校に勤めていますが、幸い南高にはJRC部があり、募金やペットボトルキヤップ回収で関わらせていただいています。今後も、砂が降り積もってJRCへの関わりが覆い尽くされないようにしたいと思います。

平成30年3月末で島根県公立学校勤務を無事定年退職し、安堵の気持ちでいっぱいです。

退職と同時に、ご縁あって、赤十字賛助奉仕団の諸先輩方から加入のお誘いをいただき、名前ばかりではありますが仲間に入れていただきました。本当にありがとうございます。

在職中は学校としての赤十字活動でしたが、個人として少しでも続けて関わりが持てたらと思います。今年は再就職したこともあるって、賛助奉仕団の活動に全く参加できず、申し訳なく肩身の狭い気持ちです。街頭募金活動などができたらよかったです。懲りずに奉仕活動にまた誘ってくださいますようよろしくお願いします。

支部より

日本赤十字社島根県支部 小林 七彩

今年度も、青少年赤十字加盟登録式や防災スクール、トレセンなど、何度か子どもたちと関わる機会がありました。その度に子どもたちの笑顔と活気に癒され、こちらが元気をもらっています。また、ある学校の先生が、「JRC活動を通して子どもたちが変わりました」「『気づき・考え・実行する』は子どもが変わる魔法の言葉です」とお話ししてください

さいました。そう話す先生の姿もいきいきとしておられ、担当者としてとても嬉しい気持ちになりました。

これからも学校現場の子どもたちや先生方の姿にいい影響を与えてもらいながら、JRCの普及に努めて参りたいと思っております。ご協力よろしくお願ひいたします。

平成30年度 贊助奉仕団事業報告

事業名	期日	場所	備考(参加者等)
青少年赤十字加盟校登録式	4月25日(水)	安来市立第三中学校 (安来市)	各日ともに1名参加 加盟登録式にて赤十字の話、肩章の贈呈
	5月2日(水)	安来市立広瀬中学校 (安来市)	
	6月13日(水)	安来市立島田小学校 (安来市)	
赤十字運動月間広報キャンペーン	5月20日(日)	一畑百貨店、キャスパル (松江市) ラビタ本店 (出雲市)	7名参加 赤十字への協力呼びかけ、カットパン配布
総会・研修会	5月21日(月)	日赤島根県支部 (松江市)	16名参加 総会(午前)：29年度事業報告及び決算報告 30年度事業計画案及び予算案 研修会(午後)：赤十字救急法講習会 救急法指導員 本田 坦氏
島根県青少年赤十字指導者協議会役員会・総会	5月30日(水)	サンラボーむらくも (松江市)	委員長出席
支部赤十字奉仕団委員長協議会	6月9日(土)	日赤島根県支部 (松江市)	委員長出席
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会役員会・総会	7月4日(水) ～6日(金)	日本赤十字社本社 (東京都)	役員会：団員1名出席 総会：委員長1名、団員1名出席
島根県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター	7月27日(金) ～29日(日)	島根県立青少年の家 (出雲市)	※台風接近のため28日午後に解散 5名参加
第9回赤十字救急法競技大会	9月30日(日)	島根県立武道館 (松江市)	※台風接近のため中止
第5プロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会	10月10日(木) ～11日(金)	セントコア山口 (山口市)	委員長および幹事長参加
役員会	11月15日(木)	日赤島根県支部 (松江市)	上半期活動状況、下半期活動計画、「いとすぎしまね(第27号)」の発行について
島根県青少年赤十字指導者協議会・青少年赤十字賛助奉仕団三役会	12月6日(木)	日赤島根県支部 (松江市)	役員5名出席
NHK歳末・海外たすけあいフェア	12月16日(日)	いきいきプラザ島根 (松江市)	2名参加 バザー用品の提供、バザー会場の運営、寄付品販売
島根県青少年赤十字指導者講習会	2月13日(水)	ホテル白鳥(松江市)	9名参加
児童福祉施設支援金(年末義援金)	12月	—	支部を通して県内13か所の児童福祉施設へ
特別義援金	7月	—	平成30年7月豪雨災害義援金
役員会	3月22日(金)	日赤島根県支部 (松江市)	「いとすぎしまね(第27号)」編集 平成31年度総会・役員会について